

「東大臨床検査セミナー2008」の開催にあたって

この度は、「東大臨床検査セミナー2008」にご参加いただき、誠にありがとうございます。大学病院検査部の存在意義は種々ございますが、日進月歩である臨床検査の知識・技術の的確な普及、さらには、明日の臨床検査を担う人材の育成に多少なりとも関与させていただくことは、たいへん重要な任務と考えております。

その一環として、東京大学医学部附属病院検査部では、同 総合研修センターの協力の元、臨床検査に従事する方々を対象とした教育講座を開設し、最新の臨床検査の動向に基づく、知識・技術の確認、技術研鑽および先端知識の習得を実践する機会を提供させていただくことになりました。日本臨床検査同学院、東京都臨床検査技師会、腎・泌尿器検査研究会など多くの団体のご協力をいただき、この初めての試みを実現できましたことを、東大病院検査部一同たいへん嬉しく思っております。

記念すべき第1回の東大臨床検査セミナーのテーマとして、「医師の立場・技師の立場から価値ある尿検査・髄液検査を目指して」を設定させていただきました。尿には、腎に始まる尿路系の異常だけでなく、体全体の変調も反映され、尿検査から得られる診断情報は極めて多く、日常診療はもちろん、健康診断等にも広く施行されています。また、髄液には、神経系の病態情報が反映され、その検査結果が重大な臨床判断の材料になることは、例えば、髄膜炎における髄液検査などを見ても明らかです。これらの検査は、その歴史も古く、その重要性が認識されているにもかかわらず、標準化の遅れもあり、日常診療において、適切な検査の施行、検査結果の最大限の利用が達成できていないのが現状と思われまます。今回、技師の立場からだけでなく、医師の視点からも、これらの検査の重要性を再確認させていただき、明日からの検査業務に役立てていただくべく議論を進めたいと考えております。

本セミナーにおいては、私ども東大病院検査部のスタッフも、皆様と一緒に学ばせていただきたいと思いますと考えております。また、今後も、テーマを変えて、本セミナーを定期的に関催させていただき予定でます。ですから、皆様からのご意見・アドバイスをいただけますならば、誠にありがたいと考えておりますので、何卒よろしくご意見申し上げます。

ご参加いただく皆様にとって、今日の一日が有意義となりますことを心から願っております。

東京大学医学部附属病院検査部を代表して

矢富 裕

横田 浩充